

本日で、如月、2月も終わりとなる。明日から弥生、3月である。明日は、3月1日、県立高等学校の卒業式である。

生徒たちは、小学校、中学校と当たり前のように進学し、義務教育を修了してきた。高校は義務教育ではない。だが、入試というハードルがあるにせよ、当たり前のように、それぞれの学校に進学しているのが実情である。

小学6年生、中学3年生、それぞれ卒業という感慨があり、新たな門出と言ったりする。今までは、小学校から中学校、中学校から高校と、ほぼ全員が同じような進路であった。

しかし、高校3年生は違う。学校という教育の場からの卒業、就職に進学と、それぞれ事業所も学校も一人一人違って来る。これこそ新たな旅立ち、出発、新たな門出と言える。

卒業式を明日に控えた3年生一人一人の胸に去来するものは何だろうか。世の中に、社会の荒波に飛び込んでいく不安があるだろう。新しい環境への心配事もあることだろう。考え出したら切りはない。

社会に出て働くということは、地域や社会に貢献できるということである。今までの12年間で世の中に貢献できる力を培ってきたのである。いよいよ蓄えてきた力を発揮するときがきた。同時に、働きながら新たな力を身につけていくことになる。これは、学校教育とはまた違った側面からのものである。自分の努力次第である。

進学する道を選んだ者は、高校までとは違って、かなり専門的に学ぶ学校で、高度な知識や技能を身につけることになる。そして、卒業後は、社会に出て即戦力として活躍することになる。在学中に、どれだけの力をつけることができるかは、自分の努力次第である。

また、就職にせよ進学にせよ、日々過ごししながら人間関係調整力をつけるようにしたい。人間関係は、避けては通れないテーマである。これは、自分にとっての味方となりパワーとなることがあるかと思えば、逆に自分をネガティブにする要因ともなる。悩みの元となる場合もある。

人間関係をうまくやるコツのようなものがあるとすれば、「自分が変わる」ことである。自分は変わるが、他人は変わらない。にもかかわらず、我々は他人が変わってくれることに期待しがちである。自分が変わるのは容易なことではない。だが、もし変われたら、同じ日常でも違った景色が見えるはずである。劇的とまでは言わないが、それまでとは違った展開が待っているはずである。

高校3年生というと18歳である。選挙権があるし、自動車の運転免許も取れる。もはや大人として認められているわけである。大人には、責任が生じる。責任というのは重い。そのことは徐々に勉強して行ってほしい。

梁川高校では、「あいさつ・身だしなみ・言葉づかい」に力を入れてきた。これらは、どこにいても通用するものである。社会に出てやっていけるだけの基礎力はつけてきた。あとは、一人一人が、自分の努力で応用力をつけて行ってほしい。3年生の明るい前途に幸多かれと願う。